

令和6年度 大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

所属名	大阪教育大学附属天王寺小学校
研究課題名	養護教諭におけるインターン教育の重要性
研究課題概要	1. 研究の背景と目的 養護教諭には、学校現場での実践力と専門性が求められる。その職務は保健室対応にとどまらず、健康診断の運営や保健指導、組織活動など多岐にわたる。しかし、各校に1人配置されることが多く、新任時には業務を単独で遂行しなければならない。特に新学期は業務が集中し、即戦力としての対応が求められるため、不安を抱える学生も少なくない。養護実習では基本的な業務を経験するが、約1か月の期間では実践的な経験を十分に積むことが難しい。実習を終えた学生の中には「より実践的な学びを深めたい」「学校現場の課題を具体的に理解したい」と考える者もいる。そこで、本研究では、養護実習後の学びの場としてインターンシップに着目し、その教育的意義と課題を明らかにすることを目的とする。 2. 研究の方法 本校では、3回生時に養護実習を終えた2名の学生を、4回生時にインターンシップ生（学生アルバイト）として受け入れた。養護実習後の課題意識や不安を整理し、インターンシップを通じた学びの変容を記録した。特に、養護実習とインターンシップの学びの違いに着目し、その教育的意義を分析した。 3. 結果と考察 養護実習は、基礎的な実践力を養う「学びの場」であり、短期間・計画的・指導付きであるのに対し、インターンシップは「即戦力を育成する場」として、継続的・主体的・実務的な学びが特徴であった。 学生の変容 (1) 養護教諭の職務理解の深化 - 健康診断の運営、健康相談活動、災害給付金手続きなど、実務の多様性を実感。 - 書類作成や情報管理の重要性を理解。 (2) 児童や教職員との関わりの変化 - 健康観察や情報収集の重要性を認識。 - 「指導される立場」から「児童を支える立場」への意識変化。 (3) 養護教諭としての自信の獲得 - 業務の流れを把握し、タスク管理能力が向上。 - 教職員との連携の大切さを実感し、即戦力としての準備が整ったと感じる場面が増加。 4. 意義と今後の課題 本校におけるインターンシップは、学生の実践力向上や養護教諭の役割理解に寄与し、学校現場にとっても職員の一員としての業務支援が得られる有意義な取り組みであった。今後、インターンシップの継続には、受け入れのシステム化が必要である。また、持続可能な形で実施するためには、学校側の負担を軽減しつつ、学生の学びを最大化できる仕組みの工夫が求められる。 さらに、本研究は主に学生の変容に焦点を当てたが、指導者側の変化や教育実習へのフィードバックの必要性も示唆された。今後は、指導者の視点からの分析を行い、インターンシップの教育的意義をより包括的に検討することが求められる。
研究課題の構成員 (リーダーに※)	※湊川さおり（附属天王寺小学校） 小崎恭弘（健康安全教育係）

※様式は頁数が増えても差し支えありません。